

よ 寄りかからず、流されず

43回目の
意見広告

今年もとびます

世界で一番豊かな国、世界で一番エネルギーを消費する国、世界で一番ゴミを出す国、世界で一番強大な軍隊を持つ国、アメリカ合衆国。

第二次大戦以降アメリカが爆撃した国は20ヶ国にもなる。

かってこれほど多くの他国を爆撃した国があったらどうか。

世界の警察国家を自負したアメリカがパリ協定から離脱すると言う。

トランプ大統領は就任初日に大統領令に署名した。

大国の責任を回避し、自国の国益だけに腐心し、50年先、100年先の地球がどうなろうと知った事かと。

軍事には興味を持っても、子どもたちの未来にはとてつもなく鈍感である。そんなアメリカに物申す国は見当たらない。

統一ドイツのワイツゼッカー大統領の演説が世界の人々を感動させたのは、第二次大戦中の自国ドイツの誤ちを率直に認め、人類の未来について語ったから。彼はこう言った。

「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目となる」と。

イラン・イラク戦争の時、アメリカがイラクに武器を輸出した事を世界中が覚えている。(ボツリヌス菌や炭疽菌まで売りつけた事を忘れてはいない。) 湾岸戦争で94万発の劣化ウラン弾をイラクの子ども達に落とした事も。もちろんウクライナ戦争で大量の武器を売りつけた事も知っている。

そんなアメリカのいいなりになって日本政府は5年かけて43兆円もの防衛費を使って日本中をミサイルで武装しようとしている。空港も港も軍事併用が進んでいる。

子どもや若者たちの貧困が叫ばれているにもかかわらず、憲法九条の国、日本が!!

さらに地方自治体(市町村)が国の要請で18才(高校卒業)、22才(大学卒業)の氏名と住所を自衛隊に提供しているのをご存知だろうか。

大分市では4月の市報で「情報提供を望まない人は、除外の申請ができます。」(但し5月30日まで)と書いてあり、ホームページから除外申請用紙がダウンロードできる。しか

しそんな記事よく見ていない人の方が多いと思う。

若者たちの個人情報や公的機関が勝手に流出させるなんて言語道断!!

まわりに流されないで、自分の頭で考え、自分の心で感じた事を発言、行動しようよ。

憲法九条の国、 日本に住む誇りを持って

(宮崎優子)



No. 235号

2025年4月10日

発行人 宮崎 優子

事務局 日高 礼子

☎090-1166-4218

FAX 097-544-7503

意見広告までの日程

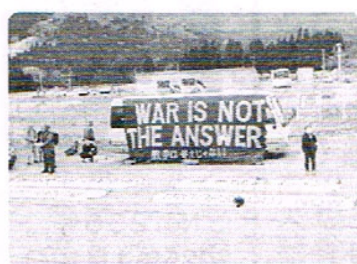
- 5月24日(土) 新聞広告デザイン会議
- 6月28日(土) 新聞デザイン決定 集計・校正作業
- 7月18日(金) 意見広告主募集〆切
- 7月19日(土) 賛同者名簿 集計・校正 13:00~
- 7月31日(木) 新聞紙面校正
- 8月 2日(土) 最終校正
- 8月15日(金) 新聞意見広告掲載

7/19以外いずれも10時~ 大分市五番街のライフパルで行います。

外国軍との大規模な共同訓練が恒常化する日出生台 16回目の米海兵隊による実弾砲撃演習

通算16回目となる米海兵隊による実弾砲撃訓練が2月27日から3月7日までの9日間、日出生台演習場で行われた。同演習場では近年、日米共同訓練が頻繁に行われるようになり、今年に入っても1月に日英共同訓練が初めて実施され、その直後に今回の米軍訓練が、人員数、車両数、ともに過去最大規模で実施されることとなった。

日出生台での米軍訓練を規定する「米軍使用協定」では、訓練規模について、「最大でも300人強、車両60台」と定めている。しかし今回の訓練は「人員430名、車両約110両」。明らかに協定違反であることが指摘されたが、九州防衛局（以下、九防）は「協定の数字は支援部隊を含まない数字であり、今回出された数字は支援部隊を含む数字であるため多く見えるだけで、協定違反ではない」という趣旨の弁明をした。しかし、部隊の内訳は明らかにしなかったため、実態はわからず、この理屈がなりたつのであれば、協定は実質的に崩壊し、無制限の拡大につながりかねない。



3月1日のゲート前集会

また、日出生台では「米軍使用協定」とともに「冬季の射撃は20時まで」とした「確認書」が結ばれている。直近で冬季の訓練がおこなれた前々回（2020年）の訓練では、米軍はこの確認書をまったく無視し、九防の制止さえも振り切って、20時以降の砲撃を5日間にわたって強行した。九防は連日、大分県庁まで出向いて謝罪。最後は普段は福岡にいる局長まで県庁に訪れ謝罪するという、前代未聞の事態となった。

その次の前回（2022年）は、この確認書の問題を回避したかったのか、日出生台では初めて春に実施され、「20時制限」は適用されなかった。

今回の訓練は確認書は無視し、大問題となった5年前の米軍訓練以降、初めての冬の訓練となり、今回は米軍がこの確認書を守るのかどうか注目が集まった。

米軍訓練が始まる5日前の2月22日、米軍によるブリーフィング（事前説明会）が日出生台演習場内で実施された。参加した報道関係者や住民からの質問は当然、この確認書の問題に集中した。

米軍からの回答は「我々が重要視するのは日米合意のみ」の一点張りだった。その意味は「日米合意で定められている午後9時までという制限は守るが、確認書の午後8時までに縛られるつもりはない」という意味であることは明らかだった。今回も5年前の悪夢が再現されることを参加した誰もが予想し、諦めにも似た感情を抱えたまま、ブリーフィングは終了した。

そんな不穏な空気の中で始まった計9日間の実弾砲撃訓練の実際はどうだったのか。

結果は、多くの周囲の予想に反して、9日間の期間中、20時以降、1発のりゅう弾砲も撃たれなかった。米軍側からその理由を説明される場がなかったため、そうなった本当の理由はわからない。米軍が地元の要望を尊重して今回は「午後8時枠」を守ったのかも、という見方もできなくはない。ただ、今回、9日間実施された訓練のうち、最後の2日間を小火器の実射しか行わず、やろうと思えばできたはずのりゅう弾砲の砲撃がゼロだったことを考えると、今回はなんらかの米軍側の事情、理由でそうなった可能性の方が高いのではないかと考えている。

いずれにしても、今回、早い時間に訓練が終了するというのは周辺住民にとっていいことだ。前回、3年前の米軍訓練が、10日間の実弾砲撃訓練のうち9日間を、21時寸前、20時50数分台まで激しく砲撃がおこなわれたことを考えると、今回、20時を過ぎなかったどころか、まだ明るいうちに訓練が終了したことで、周辺に暮らす住民は、静かで穏やかな夜のありがたさを再確認することとなった。ゆっくりお風呂に入り、家族や仲間とだんらんのひとときを過ごすことができた。夜間訓練がないことが、いかにありがたいことかを痛感した。それは裏返せば、こういった夜間の実弾砲撃訓練がいかに住民の暮らしに対する負担、ストレスとなっていたのかということでもある。

やはり、どこかの地域の犠牲の上に成り立つ平和なんて本当の平和とは言えないし、その先に私たちが求めるべき平和はないだろうということを、今回も強く感じた。（ローカルネット大分・日出生台 浦田龍次）



3月15日 由布院駐屯地前で自衛隊に要請文を渡す

軍事化が進む西日本各地の運動体がつながります

去る2月22日、鹿児島で西日本ネットワークの結成集会がありました

結成宣言

「戦争」も「武力による威嚇」も否定し、「陸海空軍その他の戦力を保持しない」と宣言した日本国憲法のもと、私たちの「戦後」は80年を迎えます。しかし、この国は、アジアの国々・人々への侵略・植民地支配の責任に向き合うことなく、また、自国の戦争被害者に対する責任も放棄したまま、新たな戦争体制づくりを急スピードで行っています。

沖縄・奄美の島々では、新たな自衛隊基地が造られ、攻撃用のミサイルと部隊が配備され、戦争態勢の構築が行われて来ました。その軍事拠点化は、いま、九州を中心に西日本から全国に拡大しています。

莫大な税金を使って、弾薬庫の建設や基地の大拡張が強行されています。全国各地で、自然破壊、住民の分断、人権侵害が行われています。国際法が求める「軍民分離の原則」に反し、住宅地のすぐそばへの軍事施設建設、民間の港湾・空港の軍事利用、公道を軍事車両が走行するまでになっています。そして、沖縄島の住民には「屋内退避」が、宮古・八重山・奄美などの住民には生活を捨てて、リュック一つで、攻撃対象にもなりうる九州や山口への「避難を名目にした疎開」が強要されています。これらは実効性のない計画です。

さらに政府は、自衛隊司令部の「地下化・強靱化」を全国で進めています。住民の命をないがしろにしたまま、戦争を遂行しようとしています。これは、住民に多大な犠牲を強いた80年前の沖縄戦をこえ、全国を破壊する戦争計画です。

また、米日・NATO諸国などによって、経済的に深い結びつきのある中国を「仮想敵」とする合同軍事演習が日本各地・周辺海空域や南シナ海などで繰り返され、「中国包囲網」の構築が行われています。そして、いよいよ中国に届く敵基地攻撃ミサイルの配備が、琉球弧ー日本列島で始まろうとしています。「大軍拡」を超えた臨戦態勢の構築が目前で行われています。私たちは戦争の加害者にも被害者にもなりたくありません。

「知り、つながり、止める。」

平和を創り出すために、本日、私たちは新たな闘いに歩み出します。互いの情報を共有し、知恵を出し合い、つながり、連帯し、市民の共同の力で、「国家による戦争」を止めます。

ここに、「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」の結成を宣言します。

2025年2月22日

「戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク」結成集会 参加者一同

赤とんぼの会 2024年 会費会計報告

収入

(単位:円)

前年度繰越	289,815	
会費	155,500	(132人)
寄利	600	
利	2	

合計 445,917

支出

印刷費	77,550	会報233号~234号
通信費	72,840	会報送料
家賃	24,000	2023年10月~2024年5月
会議費	800	駐車場代
意見広告・協力金	28,000	市民意見広告運動、9家の会セロシマ、平和のための戦争、オール大分母体大会

合計 203,190

収入 445,917円 - 支出 203,190円 = 次年度繰越 242,727円

2024年 42回意見広告 収支決算報告

収入

(単位:円)

意見広告	2,875,955	2,715人(349人)
受取利子	3	

合計 2,875,958

支出

広告料	2,735,531	大分合同、朝日、毎日、西日本
印刷費	91,300	チラシ封筒など
家賃	12,000	みんなの家6月~9月
振り替手数料	9,130	
事務費	18,824	封筒、インク

合計 2,866,785

収入 2,875,958円 - 支出 2,866,785円 = 次年度繰越 9,173円

監査報告

意見広告費帳簿、領収書等を監査した結果、適正に処理されていた事を認めます。

2024年10月4日

河上 れびみ

冷静に現実を見る

三月二十五日付の新聞に「三自衛隊指揮の司令部発足」と大きく取り上げられていた。

陸海空の三自衛隊を一元的に指揮し日米の一体化をさらに進め、共同対処能力の向上を図るとある。

まるで戦争前夜といったくあいである。さすがに一面ではなく三面だったけれど、有事や災害に即応力強化の大見出し。

冷静に現実を見てゆけば、なぜ今日本がこんなにも急いで事を進めようとするのか根拠がはつきりしない。

先日米アメリカ大統領は在日米軍関係の費用を削減すると言いだしている。ならば日本も、災害が頻発し、国民の暮らしがとも苦しくなっている今、軍事費を削減して、他へ回さなければと言えはいい。「日本を守ってやっているんだから費用は日本」と言うのなら「ほんとうにそうですか、アメリカの対アジア政策の一環では？日本としては背後にアメリカが居るんじゃないければ、中国や北朝鮮とのつきあい方も変わってくるんですけど」と本当のことを言ったらいい。

もしかしたら日本政府は日米同盟は永久不変の約束事と思っているのだから。

その意味では、突然何を言い出すかわからない今のアメリカ大統領に振り廻されながら同盟のことを再検討するチャンスが巡ってくるかも知れない。

力の差があれば、まるで属国のよ

うにつきあおうとする今のアメリカは、今まで見えなかったところをはつきりさせ、日本の外交姿勢を変えるチャンスにもなるかも知れない。アメリカの一边倒でなく、近隣のアジア諸国との協力関係を維持してゆければ、軍事費を今のうちに肥大させないでやってゆけるのでは。先日、アメリカ大統領がウクライナのゼレンスキー大統領との会談で口論になった後も、もの別れのままにならず、関係修復へと向っているのを見て、無理に妥協して丸くおさめなくとも、言いたい事を言ってみようか、合うのも悪くないかと思ってみよう。

日本も同じように、なすべき主張をすればいい。そしてなすべき行動も今ある米軍基地がほんとうに日本を守るためにだけ置かれたのかどうか問うてみる。

そして一方で日本は中国や韓国、北朝鮮に対する侵略戦争の謝罪をきちんとやったのかどうか。国としての信頼をとり戻すべく取組んだのかどうか。

政治体制や経済力の違いばかりに目がゆき誠実さを欠くようなつきあいにならぬようにやってゆかなければ。

さまざまな意味で想像を超える言動をする現アメリカ大統領は、時に思いがけず私達に深く考えさせ、発想を転換させることもあると言える。しかし強力に主張するアメリカの勢いを利用して、日本の政府がこぞとばかりに軍備や組織を拡大してゆくのは、本来憲法九条違反であり、許されないことである。(寄村仁子)

声に出して読んでみましょう憲法九条

「戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認」

①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒八七〇〇八四一 大分市六坊北町3番52号(変りました)
TEL:0900(1166)4218 FAX:097(544)7503
(ホームページ)http://aka-tombo.com/ (郵便振込)015400012160

「戦いさふ雲」上映

三上智恵監督・徳田靖之
クロストーク

とき>7月5日(土)
13:00~15:15「戦雲」上映
15:30~16:30クロストーク
ところ>ホルトホール大分
3階 大会議室
参加費>前売 大人1,000円
当日 大人1,300円
学生 500円
主催>私たちがつくる東アジア
の平和実行委員会
問合せ>090-4583-8797
(池田)

「松元ヒロ
爆笑LIVE」

とき>5月30日(金)
18:30~
ところ>ホルトホール大分1階
小ホール(200席)
前売>一般 2,800円
中・高生 1,500円
当日>空席あれば500円増
主催>ヒロさんを年に一度は観たい会
連絡先>090-2296-1953
(大原)

市民連続講座2025

「韓国・民主化運動
に学ぶ」

※韓国と大分をオンラインで
結びます。

キム・ヨンファン
講師>金 英丸さん
とき>6月15日(日)
13:30~15:30
ところ>コンパル400号室
資料代>500円(学生無料)
主催>市民連絡会おおいた
連絡先>naga1954622@gmail.com
(事務局・永山)

平和のための戦争展

「平和・核・人権」(仮)
~若者の未来~

<トーク>
徳田靖之さん(弁護士)と
高校生&大学生
とき>8月31日(日)
13:30~
ところ>コンパル 3階
多目的ホール
参加費>500円
連絡先>090-1088-1563
(神戸)

憲法記念日講演会

「地域から
平和をきずく」

~今こそ「平和憲法」の
精神に立ち返ろう~

講師>池尾 靖志さん
(立命館大学非常勤講師)
とき>5月3日(土)
10:00~12:00
ところ>大分県教育会館
(大分市下郡)
共催>平和憲法を守る会大分他
連絡先>097-534-3436
(大分共同法律事務所)

大分県母親大会

「おしゃべりから
政治をはじめよう」

講師>和田 静香さん
(ライター)
とき>7月13日(日)
10:00~
ところ>コンパル 3階
多目的ホール
参加費>1,000円
連絡先>097-568-8931
(大分県母親大会実行委員会)